

# エスティマハイブリッド(AHR10W)(H15.07～H17.12)

## ブレーキフルード交換要領

- 適応車種: エスティマハイブリッド(AHR10W)
- 適応年式: 平成 15 年 7 月～平成 17 年 12 月

G-scan を使用して行なうエスティマハイブリッド(AHR10W)のブレーキフルード交換要領を記載しますので、参考にしてください。



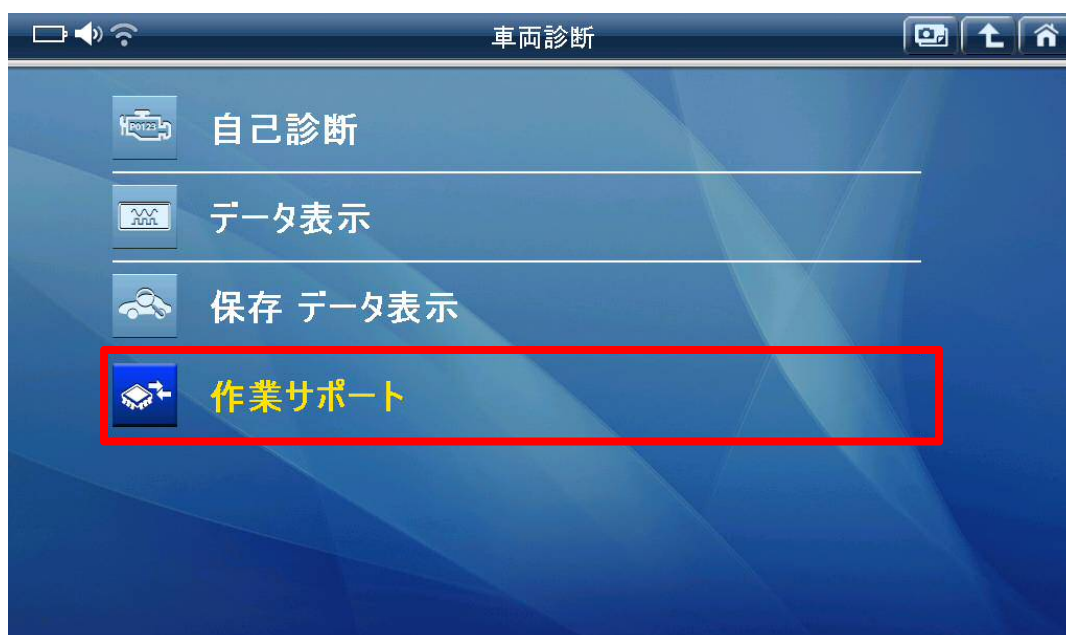
### ※注意※

- ・ブレーキフルードの交換は車両停止状態、車両が正常な状態(ウォーニングランプ消灯時、故障未検出時)で実行してください。
- ・エア抜きを行う際はシフトレバーPレンジでパーキングブレーキを効かせた状態で作業を行なってください。
- ・エア抜きはエアが完全に抜けるまで行なってください。エアが完全に抜けていないと車両に悪影響を及ぼすだけでなく、ブレーキ回路に支障をきたし、正常なブレーキ操作ができなくなり、交通事故を引き起こす原因となります。
- ・交換中はリザーバタンク内のブレーキフルードが常にリザーバタンクを満たしている状態にしてください。

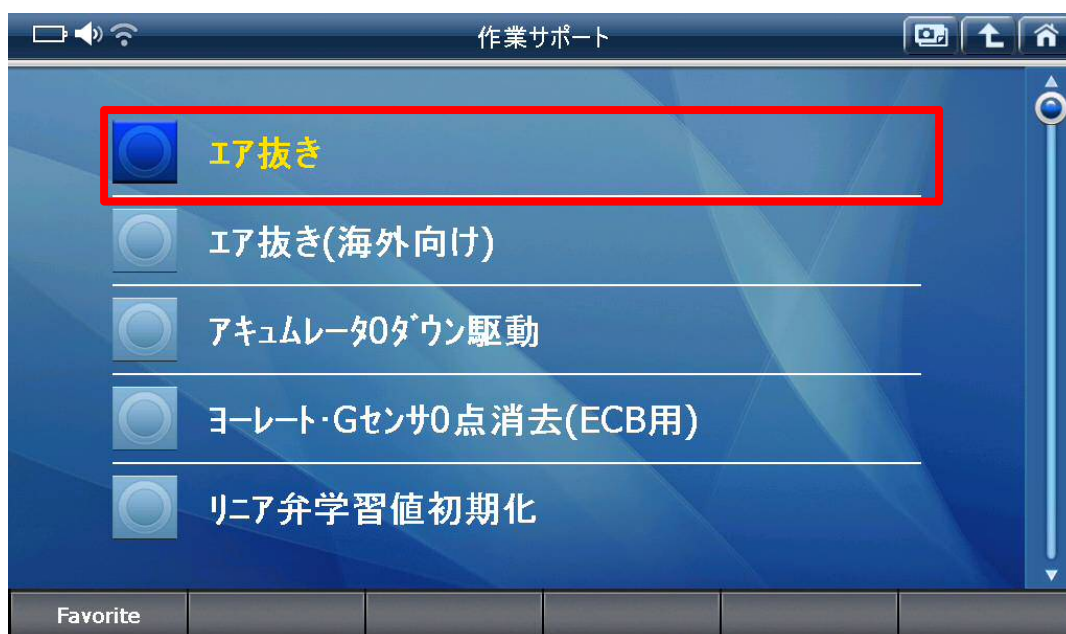
### ブレーキフルードの交換要領

1. IG SW OFF の状態で、G-scan を DLC3 コネクタ(OBD16 ピン)に接続してください。
2. IG SW を ON にしてください。
3. G-scan の電源を ON にして車種、システムを選択してください。選択するシステムに関しては『ABS/VSC』又は『ABS/VSC/ARS』を選択してください。

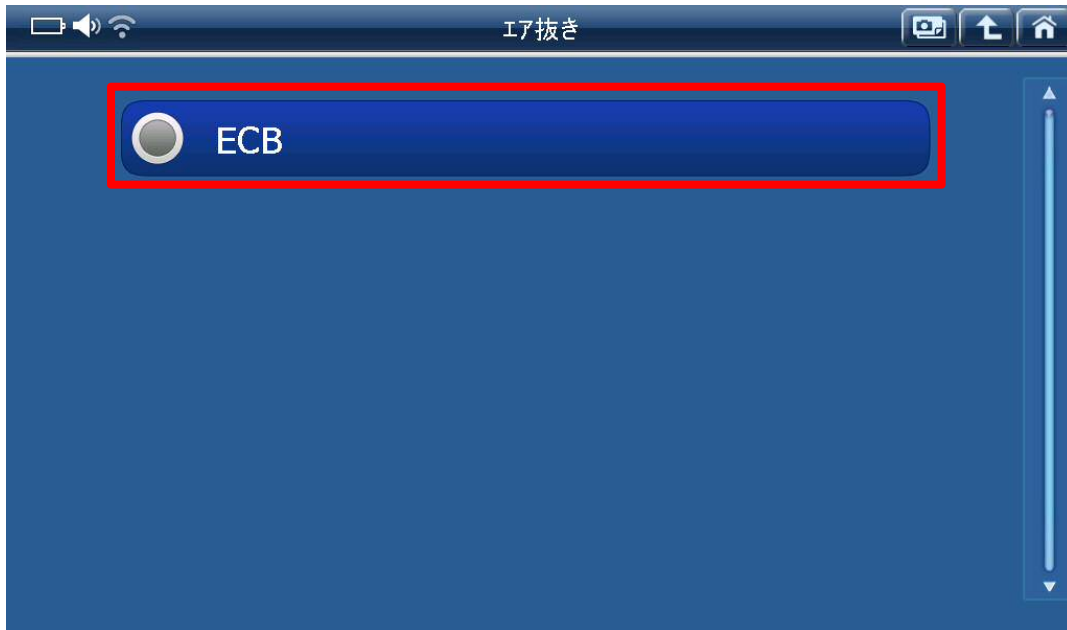
4. 診断メニューにおいて、『作業サポート』→『エア抜き』→『ECB』の順番で項目を選択してください。エア抜き項目が表示されます。



〈図: 作業サポートを選択〉

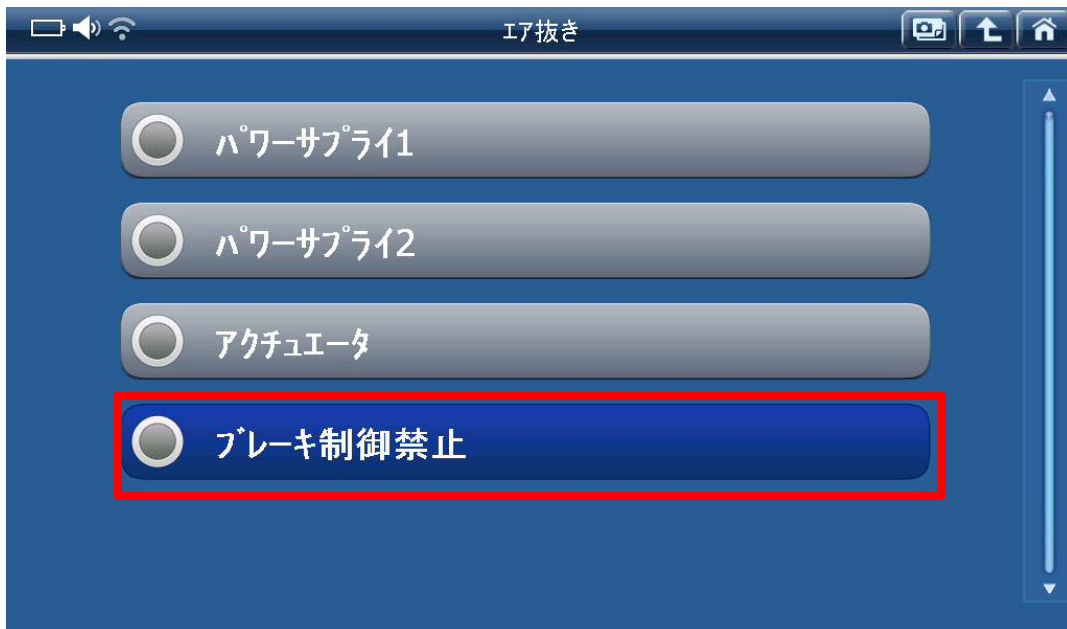


〈図: エア抜きを選択〉

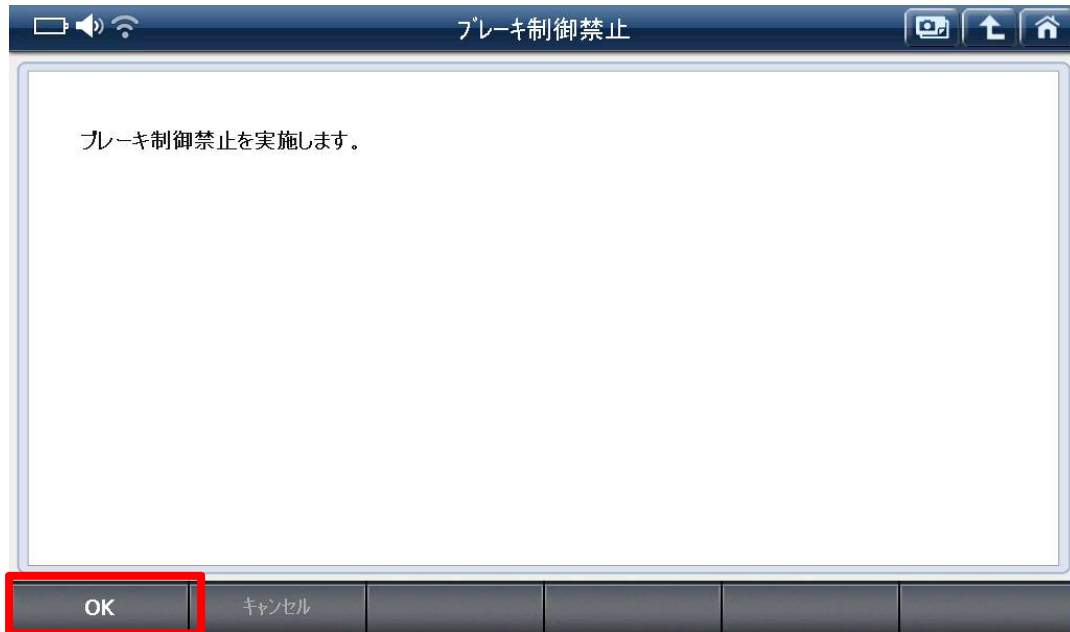


〈図: ECB を選択〉

5. 『ブレーキ制御禁止』を選択して、実行してください。



〈図: ブレーキ制御禁止を選択〉



〈図:ブレーキ制御禁止を実行〉

6. ブレーキペダルをペダリングし、フロント右、左のブリーダプラグよりエア抜きを行なってください。

**※注意※**

- ・エア抜きはエアが完全に抜けるまで繰り返し行なってください。
- ・エア抜きは右、左の順に行なってください。
- ・ブリーダプラグの締め付けトルク:  $8.3\text{N}\cdot\text{m}$  {85kgf·cm}

7. G-scan で実行した『ブレーキ制御禁止』を解除します。



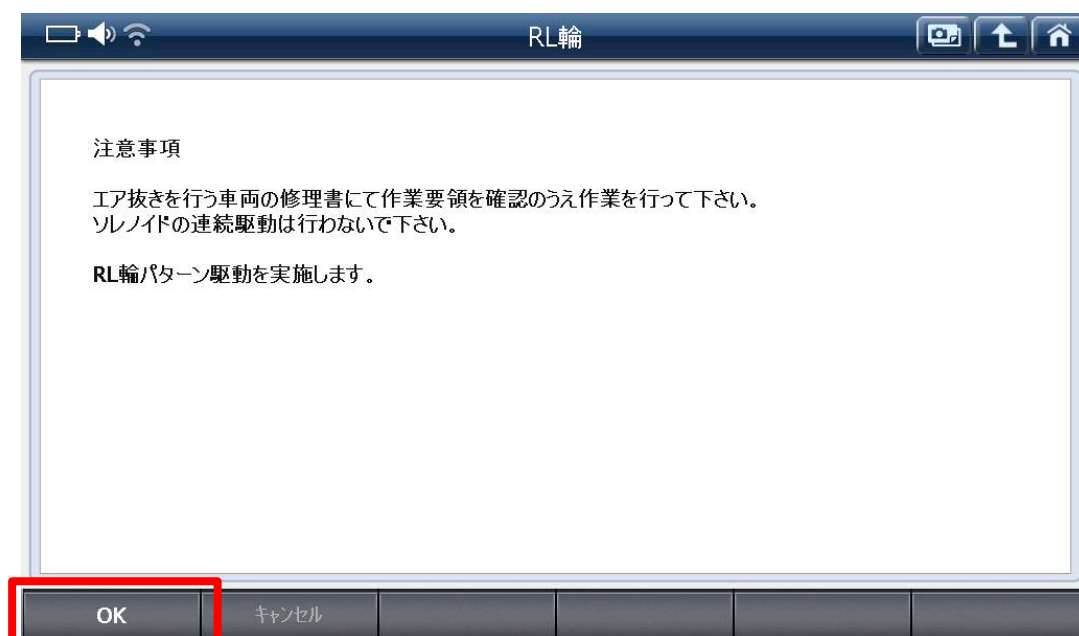
〈図:ブレーキ制御禁止の解除〉

8. G-scan の診断メニューにおいて『自己診断』を選択して記憶された故障コードを消去してください。

9. G-scan の診断メニューにおいて『作業サポート』→『エア抜き』→『ECB』の順番で項目を選択し、『RL 輪』を選択して、実行してください。



〈図:RL 輪の選択〉



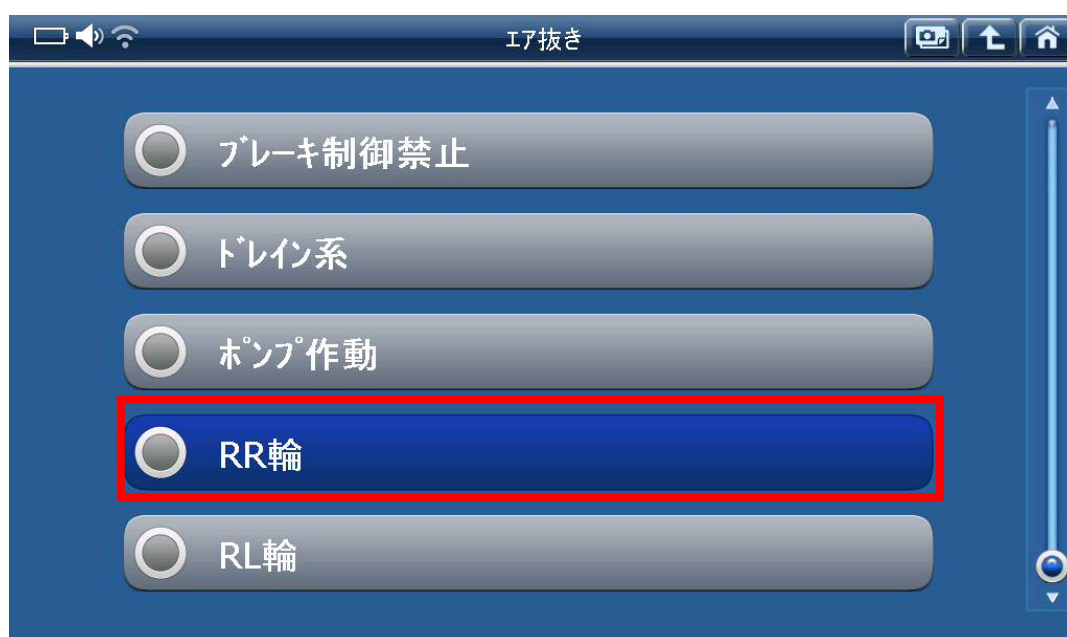
〈図:RL 輪の実行〉

10. ポンプモータ、ソレノイド駆動中にリア左のブリーダプラグよりエア抜きを行なってください。エア抜きはブレーキペダルをペダリングせず、踏み込んで保持した状態で行なって下さい。

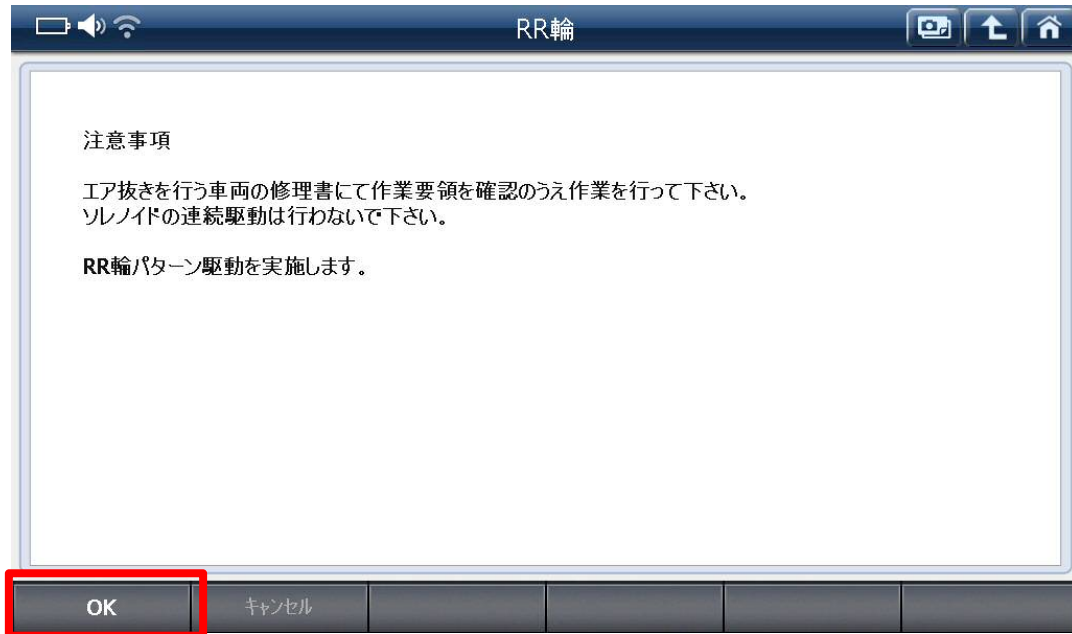
**※注意※**

- ・ソレノイドの駆動は約 30 秒で自動的に停止します。
- ・エア抜きはエアが完全に抜けるまで繰り返し行なってください。
- ・ブリーダプラグの締め付けトルク:  $8.3\text{N}\cdot\text{m}$  {85kgf $\cdot$ cm}

11. G-scan の診断メニューにおいて『作業サポート』→『エア抜き』→『ECB』の順番で項目を選択し、『RR 輪』を選択して、実行してください。



〈図:RR 輪の選択〉



〈図:RR 輪の実行〉

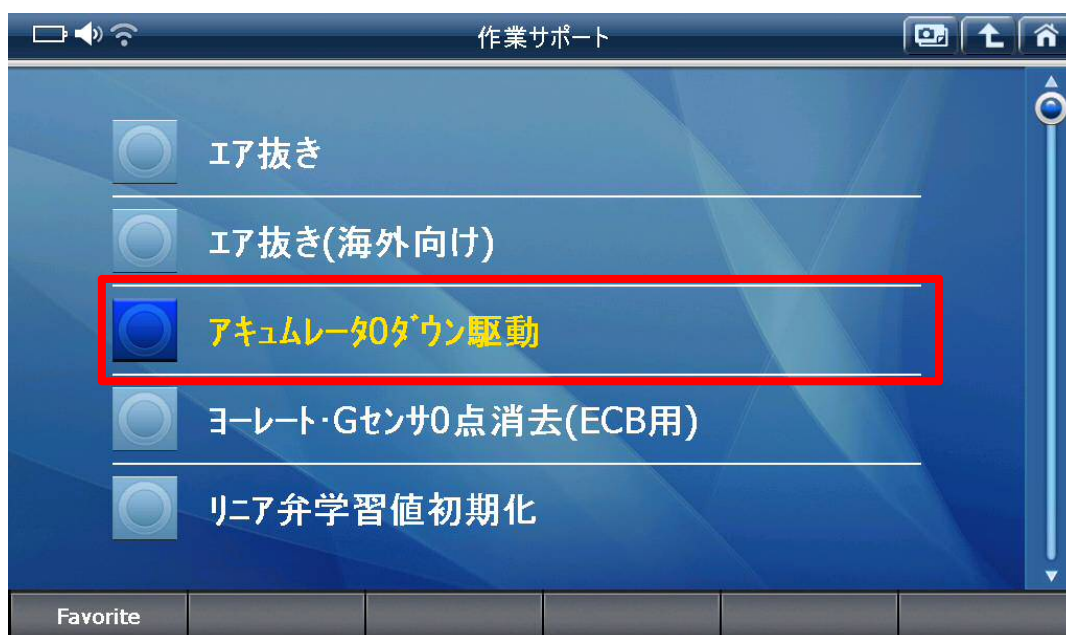
**12.** ポンプモータ、ソレノイド駆動中にリア右のブリーダプラグよりエア抜きを行なってください。エア抜きはブレーキペダルをペダリングせず、踏み込んで保持した状態で行なって下さい。

**※注意※**

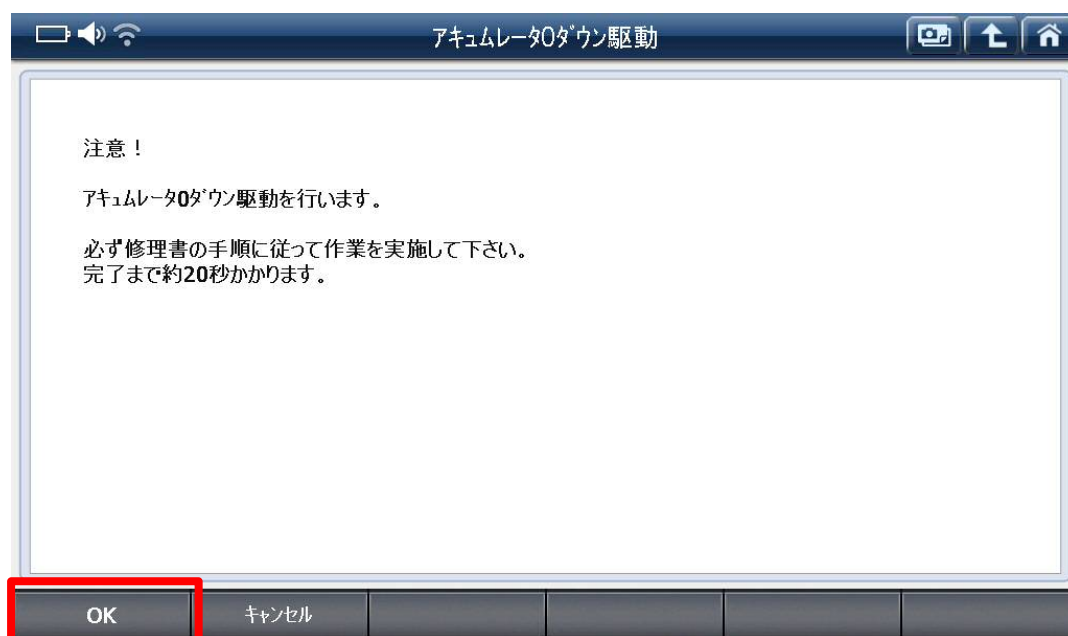
- ・ソレノイドの駆動は約 30 秒で自動的に停止します。
- ・エア抜きはエアが完全に抜けるまで繰り返し行なってください。
- ・ブリーダプラグの締め付けトルク: 8.3N・m {85kgf・cm}



13. G-scan の診断メニューにおいて『作業サポート』→『アキュムレータ0ダウン駆動』の順番で項目を選択し、『アキュムレータ0ダウン駆動』を実行してください。



〈図:アキュムレータ0ダウン駆動を選択〉



〈図:アキュムレータ0ダウン駆動を実行〉

14. 『アキュムレータ0ダウン駆動』完了後に IG SW を OFF→ON してください。
15. 13、14の作業を 5 回繰り返してください。
16. リザーバタンク内のブレーキフルードが MAX レベルになるようフルード量を調整してください。
17. 最後に G-scan の診断メニューにおいて『自己診断』を選択して記憶された故障コードを消去してください。